

落合陽一氏、マクニカのイベントに登壇。本日前売り販売開始の、  
大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「null<sup>2</sup>」で実証予定の  
デジタルヒューマン型 ID「Mirrored Body<sup>®</sup>」について詳細を発表。

株式会社マクニカ（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：原 一将、以下マクニカ）は、11月29日に開催したカンファレンス「Macnica Exponential Technology 2023（マクニカエクスポネンシャルテクノロジー2023、以下略称 MET2023）」にて、大阪・関西万博プロデューサー 落合 陽一氏をスピーカーに迎え、セッション『フィジカルとデジタルを生きる 新しい私の証。』の中で、大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「null<sup>2</sup>」（©Expo 2025）の最新情報と、そこで実証を予定しているデジタルヒューマン型 ID 基盤「Mirrored Body<sup>®</sup>」および、万博で提供を目指している、カード型ハードウェアウォレットについての情報を初公開しました。



■ 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博） について - シグネチャーパビリオン：null<sup>2</sup>

シグネチャーパビリオン「null<sup>2</sup>」（©Expo 2025）の最新情報として、パビリオンの外観および建物内で体験できる映像とインフィニティミラーに包まれた空間を、映像とVRを使ってご紹介しました。



「いのちを磨く」というテーマの元に構想されたパビリオンのコンセプトは「二つの鏡」。建築は全体が有機的に動くミラー膜外装に覆われており、変形しながら風景を歪める彫刻、フィジカルの鏡として未知の風景を映し出します。シアター内は巨大な LED と合わせ鏡に囲まれた空間になっており、そこでデジタル化された自身の身体「Mirrored Body<sup>®</sup>」に出会うという、未知の体験となります。



©Expo 2025/画像提供：サステナブルパビリオン2025

### ■ Mirrored Body<sup>®</sup>について～Mirrored Body<sup>®</sup>が実現する未来の社会インフラ

シグネチャーパビリオン「null<sup>2</sup>」で実証体験できる予定の「Mirrored Body<sup>®</sup>」は、新しいデジタルヒューマン型 ID 基盤のプロトコルです。自身の撮影したデータを元に作成した 3D モデルとブロックチェーン上で自分だけが管理権限を持つ NFT が紐づくことで生まれる、この世で唯一のデジタル上の分身であり、自分自身に関わるデータを溜め込む程リアルな本人に近づき、成長していく写し鏡でもあります。



デモアプリ制作協力：株式会社アクセル、株式会社メタクロシス

パビリオンでの実証後、Mirrored Body<sup>®</sup>は本人の意思で管理できるデジタル ID として機能します。これ新しい活動単位・身体としてフィジカル世界とデジタル世界を自由に往来することにより、人が体験できる時間や空間が拡がり、人生の可能性も大きく拡げることになります。

### ■ Mirrored Body<sup>®</sup>と連携させることで真価を発揮する、ハードウェアウォレット

Mirrored Body<sup>®</sup>へのアクセスを外部からの攻撃から守る、次世代セキュリティとして、マクニカが選んだのは、カード型の最先端ハードウェアウォレット。Mirrored Body<sup>®</sup>の公開とともに販売を開始し、将来の事業価値を創り出します。パートナーの Composeure 社は、プレミアムペイメントカード及び暗号通貨とデジタル資産ストレージのセキュリティソリューション開発のパイオニアとして 20 年以上の実績を持つ企業です。世界のハードウェアウォレットの市場規模は、2022 年の 3 億 2,050 万米ドルから、2028 年には 12 億 2,280 万米ドルの規模に成長すると予測されています\*<sup>1</sup>。今後、web3 時代には、必ず注目される最新技術が、このハードウェアウォレットです。Mirrored Body<sup>®</sup>が ID として機能する世界を便利かつ、安全に実現するために、マクニカは、ハードウェアウォレットにより、自分のデータを自身で安全に管理していくという、新しい情報インフラ実現を目指します。万博では限定のプレミアムカードとして、特別仕様のハードウェアウォレットの販売も目指しています。

\* 1 出典：株式会社グローバルインフォメーション



Composecure 社 Arculus 製品リーダー Tom D'Eletto からのビデオ的一幕

### ■サステナブルパビリオン2025の挑戦

サステナブルパビリオン2025は、このID基盤プロトコル「Mirrored Body®」を2025年に開催される大阪・関西万博の落合陽一プロデューサーのシグネチャーパビリオン「null²」（©Expo 2025）でブロックチェーン上のDID（分散型ID）とハードウェアウォレット、本人確認された「Mirrored Body®」を載せるNFTとVerifiable Credentials、DID/VCs/NFTに紐づく「Mirrored Body®」データの管理を分散型アクセスコントロールのVWBL（ビュアブル）と実証する予定です。

この実証にて多くのパビリオン来場者が体験することで、利用者の短期的な拡大を目指し、さまざまな業界の事業パートナー（サービスプロバイダー）と「Mirrored Body®」を活用したサービス提供を共同で創り出すことを目指しています。





落合氏の「最後に重要なことですが、協賛パートナーを募集しています！」というコメントで笑いが起き、熱気に包まれた中、45分のセッションは終了いたしました。



マクニカ代表取締役社長 原（写真左）、落合陽一氏（写真右）

■本セッションの様子は2023年12月1日(金)～12月8日(金)まで、期間限定で無料にてオンライン配信いたします。是非ご覧ください。

視聴方法など詳細は下記ページをご覧ください。

<https://met2023.macnica.co.jp/>

■Mirrored Body®および、サステナブルパビリオン2025の事業内容について詳しくはコーポレートサイトをご覧ください。

<https://sp-2025.com/>

■Macnica Exponential Technology (MET) 2023について

多くのテクノロジーが指数関数的（＝エクスポネンシャル）に進化し、生成AIの普及など、より私たちにとって身近なものとなりつつある昨今、テクノロジーを社会課題の解決に活かすために、組織の垣根を超えたパートナーシップ、すなわち「共創」が求められています。今年は「価値共創」をテーマに、エクスポネン

シャルテクノロジーの活用と、「共創」によって、どのように社会に価値を生み出せるかを、各界の第一人者であるゲストの皆さんとともに、様々な視点から紐解いていきます。

※本文中に記載の社名及び製品名は、株式会社マクニカおよび各社の商標または登録商標です。

※ニュースリリースに掲載されている情報（製品価格、仕様等を含む）は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご承知ください。

## サステナブルパビリオン2025について

株式会社サステナブルパビリオン2025は、デジタルとフィジカルの垣根を越えて、人の体験できる時間や空間を拡げ「もっと自分を、新しい自分を生きる」ことを可能にする“究極のID基盤”である「Mirrored Body<sup>®</sup>」を開発しています。デジタルヒューマンの概念を進化させる「Mirrored Body<sup>®</sup>」の仕組みや技術を標準化し、あらゆる人が社会的に活用できるプラットフォーム構築の実現に取り組んでいます。

株式会社サステナブルパビリオン2025について：<https://sp-2025.com/>

## 株式会社マクニカについて

マクニカは、半導体、サイバーセキュリティをコアとして、最新のテクノロジーをトータルに取り扱う、サービス・ソリューションカンパニーです。世界23か国/地域81拠点で事業を展開、50年以上の歴史の中で培った技術力とグローバルネットワークを活かし、AIやIoT、自動運転など最先端技術の発掘・提案・実装を手掛けています。

マクニカについて：[www.macnica.co.jp](http://www.macnica.co.jp)